

## 第196回森で遊ぶ会(西白塚観察会)実施報告書

1. 実施日時: 令和5年5月22日(8:00~17:00)
2. 実施場所: 富士山西白塚周辺
3. 参加者: 27名
4. インストラクター: (幹事) 佐野、杉山  
(アシスタント会員) 青野、越智、喜多、小久保、小嶋、高橋、矢下

### 5. 実施状況

令和3年に企画した西白塚での観察会は中止だったので、この場所での開催は2年ぶりとなった。参加者27名、インストラクター9名が4班に分かれて実施した。遊歩道のあちらこちらに立入禁止のロープが張られていたので、駐車場から西白塚までの短いコースを設定した。

駐車場周辺にも様々な樹木や草花があり、解説に時間を要した。森の中に入ると、ツルシロカネソウ、クワガタソウ、ヤマトグサが多くあり、花期を迎えていた。ヤマシャクヤクは見頃を過ぎてしまっていたが、開花中や蕾の株も観ることができた。クロツグミ、キビタキ、コルリ、アカハラなど夏鳥のさえずりやハルゼミ、エゾハルゼミの声も森中に響き、この時期ならではの観察会となった。昼食後は、インストラクターによる「クマ」の講話があり、クマが森づくりに重要な働きをしていることを学んだ。今回の森で遊ぶ会は、富士山は雲に隠れて見るができなかったが、雨にも降られず、のんびりと富士山二合目落葉広葉樹の森を観察することができた。以下、各班の状況を報告する。

#### <1班>(担当:高橋、佐野)

1班は7名で、西白塚へは何回も来たことのある方々だった。駐車場から観察を開始。アブラチャン、ゴマギ、アズキナシ、シロバナノヘビイチゴ、イケマ、マムシグサの仲間など、沢山の植物があったので、それぞれの特徴を説明した。マムシグサの仲間は種名がわからなかったので、マムシグサ類一般について解説した。栄養状態によって性が変わることや、受粉の仕組み、雄株と雌株の見分け方等を話すと、巧みな植物の仕組みに驚いていた。

森への入り口付近には、茎の先端が無くなったイタドリがあったので、じっくり観察してもらった。「動物の食痕ですが、どんな動物が食べたかわかりますか？」と質問すると、「ウサギ？」と自信なさそうな答えが返ってきた。正解だったので、ノウサギの歯と食べ方について解説した。

森の中に入り、林床を見ると、ツルシロカネソウ、クワガタソウの白い花が目についた。ヤマトグサも沢山あった。ヤマトグサは小さな草なので、雄花と雌花を拡大した写真を見せて花の構造を説明した。観察を続けながら歩くと、ミソサザイのさえずりが森の中に響き渡っていた。「この特徴ある声の主はミソサザイです。」と言うと、参加者の一人から「ミソサザイは大きな口を開けて鳴く、茶色っぽい鳥ですよ。」とドンピシャリの答が返ってきた。草花だけでなく、野鳥にも興味を持っている方がいてよかった。耳を澄ましていると、たくさんの野鳥のさえずりやハルゼミ、エゾハルゼミの鳴き声も聴こえる。ホオノキ、チドリノキを観て、丸太の階段を登っていくと、見頃を迎えた「ヤマシャクヤク」があった。

早速、皆さんスマホで写真撮影。開花中と蕾の状態の2株が並んでいたの、観てもらうには丁度よかった。ヤマシャクを観た後は、カエデ広場で一服。水分補給してから散策を再開。ニリンソウ、バイケイソウを観察しながら、白塚へ登る緩やかな山道にたどりついた。登っていくと周辺には、ミツマタが沢山生えていた。塚に到着したので、下見で確認しておいたヤマシャクが多く生えている東側斜面を見たが、既に花は散り、実を付け始めていた。12時近くになったが、まだ他の班は来ない。朝食が早く、お腹が空いてしまったので、食事をしたいとの要望が多かったので、昼食とした。

昼食後は、塚を下り、周辺の遊歩道をゆっくりと歩きながら観察を再開した。遊歩道沿いにもヤマシャクが所々に生えていた。いずれも花は散ったものが多かったが、まだ花びらを数枚付けたものもあった。ハリギリ、ブナ、サワグルミ、カツラ、キハダを観察しながら駐車場まで戻ってきた。駐車場では「水源かん養保安林」の看板に気が付いた参加者から、「どういう林？」と質問があったので、保安林について解説した。今回のコースは距離も短かったので、じっくりと植物等を観察することができた。心配した雨も降らず、参加者も満足していただけたと思う。(佐野 記)

#### <2班> (担当:小久保、青野、喜多)

藤枝、焼津地区の参加者からなる班だったが、どなたも参加回数の多いリピータの方々だった。それだけに路端の小さな草花も参加者は見逃さず、どれも丁寧に見て回るのでなかなか前に進まない観察行になった。森に入る前に駐車場の回りだけでも見るものが沢山あり、ここだけで随分時間を使った。参加者の多くが双眼鏡を持参しており、イタヤカエデの花などはるか高くにあるものも丹念に観察した。ちょうど花が咲いていたアズキナシでは、枝を引き寄せて花をしげしげと眺めて「サクラの花にも似てるけど…」との感想。そこで「そうです、どちらもバラ科の両性花です」「なるほど」というやり取りなど、皆さん観察眼もしっかりお持ちだった。またミズナラには大きな虫コブ(リンゴフシ)が着いていたが、「あっ、これは前回の森町で見たリンゴフシと同じだ。これも割って中を見てみたい。何とか届かない?」と、参加者。手持ちのストックを目一杯伸ばしても届かない高さなので、諦めてもらったが残念そうだった。こんな感じなので、当班は終始遅れてずっとどん尻を歩く結果になってしまった。

森に入ると、当然のようにヤマトグサ、クワガタソウ、ツルシロカネソウなど林床の小さな草花に注目が集まった。そこでスマホカメラに取りつけた拡大鏡で、いちいち花の拡大画像を撮って見てもらった。肉眼では辛うじてそれと分かる程度のクワガタソウの2本の雄しべ、5つの黄色い腺点のように見えるツルシロカネソウの花弁、それに何と言ってもあの独特なヤマトグサの雄花など、皆さんにしっかり見てもらった。今回の「売り」のヤマシャクヤクではもう花の終わっている株が多かったが、それでも何株かはちょうど花が見頃で喜んでもらえた。更に「ここにはルイヨウボタンもある筈だけど?」との声もでたが、こちらは残念ながら花が終わっていた。この班の中には野鳥に詳しい方も複数おられ、鳥の声がする度に「ん、これは〇〇」と一緒に同定しながら歩いた。

確認できたのは、キビタキ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、コルリ、クロツグミ、アカハラ、アオゲラなどだった。短い距離ではあったが、濃密な観察ができたことに皆さん満足していただけたものと思う。(小久保 記)

#### <3班> (担当: 杉山、矢下)

いずれもリピーターの会員5名を案内した。中には草花に詳しい会員もおられたので解らないものについては、一緒に考える姿勢で進めていく。

同定が難しいのがマムシグサの仲間。同定のヒントの一つとなるのが偽茎と花序柄の長さの比較だが、確定は避け、ホソバテンナンショウを候補に挙げた。この仲間の受粉戦略を説明し、雌雄の見分け方も確認できた。

林内では、ツルシロカネソウ、クワガタソウ、ヤマトグサの花をじっくり観察、キンポウゲ科にはツルシロカネソウはじめニリンソウ、トリカブト、ボタンヅルなど花弁のような萼を持つものが多い。クワガタソウの茎の生える毛に注目し、ヤマクワガタを探すが調べたものは皆、毛先が鉤型に曲がったクワガタソウだった。ヤマトグサの雌花も、先端装備を持ち合わせていない3班は、ルーペで確認した。

ベテラン会員がナベワリ(ビャクブ科)を見つけてくれた。葉がチゴユリに似ているが、花を下向きに慎ましやかに一つ付け个性的である。みんなで花をのぞき込む。大きなキハダの根元がトンネルの様になっていたが、どうしてだろうとみんなで考えた。倒木更新と言う結論に至った。更に歩いてヤマシャクヤクの花にご対面、皆さん感激してくれたようだ。

サワシバには丁度、果穂がたくさん垂れていたののでじっくり覗き込み、果苞をめくり、付け根の若い果実を見つけた。カツラの大木を見ながら春葉、夏葉の説明やらサワグルミの別名フジグルミの謂れを説明する。また、下見では気が付かなかったサラサドウダンが咲いていて観賞できた。

地形地質についても、西白塚の噴石丘が伏せたお椀の型をしていることを横から見て確認したり、噴火口、スコリアや溶岩など観察する。また、「かつて富士山の東側にもう一つの山体があり、フタコブラクダの様な山体をしていたが、約2900年前に東側が山体崩壊を起こして崩れ去り、現在、御殿場岩屑なだれ堆積物として残っている。」という学説も紹介する。(杉山 記)

#### <4班> (担当: 小嶋、越智)

4班はふだん里山をたのしんでいる女性7人でした。

駐車場では、シロバナノヘビイチゴの可愛い花を観察して実は付いていなかったが、実は食べられることを話すと『名前に蛇が付いているので食べられないと思っていた。』と言う方もいた。私もシロバナノヘビイチゴの実は食べたことがないので食べてみたかった。一般的なヘビイチゴは甘味がなく美味しくないことは分かっていたがシロバナノヘビイチゴは我々がスーパーなどで購入して食べているイチゴの元となった植物だということなので残念だった。

森に入る入口でチドリノキに花や実が付いているのを発見、カエデの仲間であることを、みんな確認した。今度は足元を観るとヤマトグサを発見、雄花がかんざしの様に揺れることも実験した。しかし雌花は小さくて確認できなかった。

この小さくて地味な花は現在朝ドラで人気の『らんまん』主人公のモデル牧野富太郎博士が命名したこと、日本固有種であることを話す。皆さんテレビをご覧になっている様子で盛り上がった。

お目当てのヤマシャクヤクの蕾と開花した花が一度に見られる場所があったので森の中に進むと歓声が上がった。開花して完全に花びらが残っていたのはこの場所だけだったので、帰りにもう一度立ち寄って観察した。(小嶋 記)

### 写真で振り返る



バスから降りて、東屋でオリエンテーション



駐車場から観察開始  
アズキナシの花が咲いていた



クワガタソウ

森に入ると林床には、本種が沢山開花し見頃を迎えていた



ヤマトグサ

これが牧野博士が日本人で初めて命名した有名な大和草  
かんざしの様な雄蕊が特徴



ヤマシャクヤク

開花した株が、まだあった  
今年は開花が早かった



ウラジロモミ林の階段を登っていくと、もうすぐ  
カエデ広場



噴火口跡で昼食  
倒木の上に座り、至福の時を過ごす



森林インストラクターによる野外授業は「クマの話」。  
クマは森にとって重要な動物、クマ鈴は過信しないこ  
と・・・ など、など

(佐野 まとめ)